

業界レポート

自動車部品製造業



令和7年8月

目次

- 01. レポートサマリー
- 02. 基礎知識
- 03. 業界の動向
- 04. 今後の焦点
- 05. CCIのソリューション

01. レポートサマリー

基礎知識

- 自動車部品製造業界は多数の部品・システムメーカーによりサプライチェーンを構成、なかでもエンジン関連部品は品目種類が多く、出荷額構成比がもっとも高い。
- 2020年度にはいり、世界的な半導体不足から自動車メーカーが減産し、本業界も影響を受けている。

業界の動向

- 2050年カーボンニュートラル実現をめざすグリーン成長戦略では、乗用車は2035年までに新車販売で電動車100%を目標としている。
- CASEの進展により付加価値は、ハード（車両本体）からソフト（サービスプラットフォーム）に移動していく。
- リコール届出件数は直近10年間に於いて上昇基調、電子制御部品の不具合に関連する届出件数は近年増加傾向にある。

今後の焦点

- 自動車部品製造業界はガソリン車から電動車への部品需要移行により、事業転換を迫られる。
- 次世代自動車分野（インフラ、サービス含む）では、一層の安定性、耐久性、精度、小型化、軽量化などを実現する高い製造技術が求められる。

02. 基礎知識

自動車部品製造業とは

自動車部品製造業界は多数の部品・システムメーカーによりサプライチェーンが構成されており、特定メーカーとの長期的な取引関係を背景に、高品質、安定供給を実現している。



02. 基礎知識

品目別出荷額（290社分）

自動車部品品目別出荷額

- エンジン関連部品は品目種類が多く、出荷額構成比が高い。
- 電動車両用部品（HV、FCV、EV）は構成比は極めて小さいが、出荷額は前年度比1.5倍近く増加している。

品目	出荷額（百万円）	構成比	前年度比
エンジン部品	2,775,147	13.2%	102.9%
電装品・電子部品（エンジン関係）	2,852,201	13.5%	107.1%
電装品・電子部品（車体関係）	3,314,215	15.7%	104.8%
駆動・伝導及び操縦装置部品	4,189,595	19.9%	106.0%
懸架・制御装置部品	869,530	4.1%	114.9%
車体部品	4,912,473	23.3%	105.7%
用品	258,827	1.2%	100.8%
情報関連部品	769,141	3.7%	126.1%
電動車両用部品（HV、FCV、EV）	1,124,995	5.3%	142.8%
合計	21,067,126	100.0%	107.8%

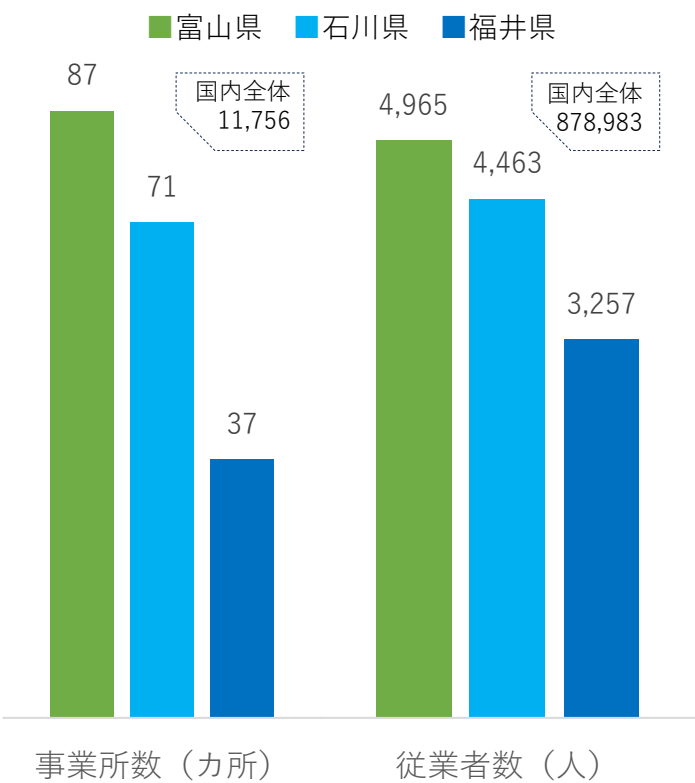
出所：（一社）日本自動車部品工業会 2023年度自動車部品出荷動向調査結果

02. 基礎知識

北陸三県の自動車部品製造業

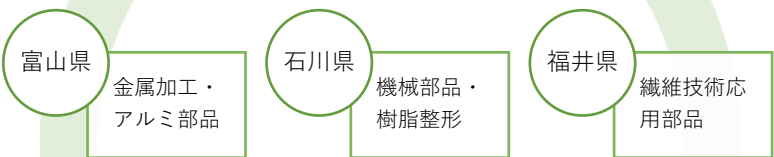
- 北陸三県の業界規模は国内全体の1.5%程度であり、独立系の部品サプライヤー（Tier2,Tier3）が集積している。
- 地域内には規模は大きくないものの、国内外で高いシェアを占める製品・技術が点在し、その分野では市場をリードしている。

自動車・同付属品製造業界の規模



出所：【総務省】令和3年経済センサス

産業集積の特徴



富山県は金属加工・アルミ部品、石川県は機械部品・樹脂成形、福井県は繊維技術応用部品が強み。各県の特徴ある製造技術が自動車部品製造に活用されている。

富山県

- 三晶技研株式会社
自動車用コネクタ金型
- 速水発条株式会社
シートベルトリトラクター用
ぜんまい



注目企業

石川県

- 株式会社月星製作所
ESC（横滑り防止装置）構成
部品
- フジタ技研株式会社
冷間鍛造用パンチ

福井県

- セーレン株式会社
カーシート表皮材
- ジャパンポリマーク株式会社
サンバイザー用コーションラ
ベル

03. 業界の動向

電動化の影響

日本の次世代自動車の普及目標

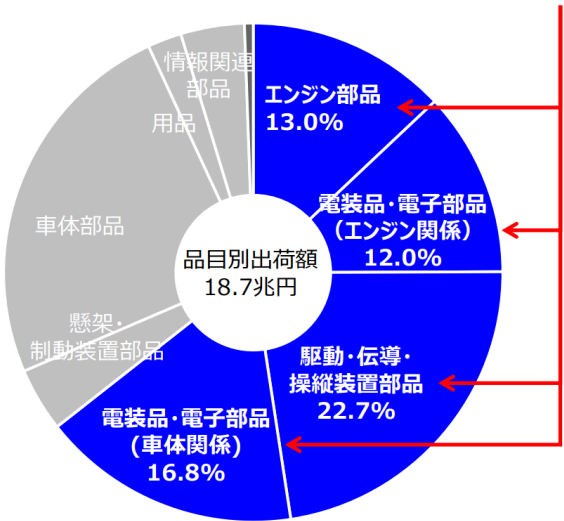
<参考> 2019年新車乗用車販売台数：430万台

	2019年 (新車販売台数)	2030年
従来車	60.8% (261万台)	30~50%
次世代自動車	39.2% (169万台)	50~70%※
ハイブリッド自動車	34.2% (147万台)	30~40%
電気自動車 プラグイン・ハイブリッド自動車	0.49% (2.1万台) 0.41% (1.8万台)	20~30%
燃料電池自動車	0.02% (0.07万台)	~3%
クリーンディーゼル自動車	4.1% (17.5万台)	5~10%

※次世代自動車戦略2010「2010年4月次世代自動車研究会」における普及目標

自動車の電動化に移行した場合に
影響が大きい領域

※内燃機関に関連した部品



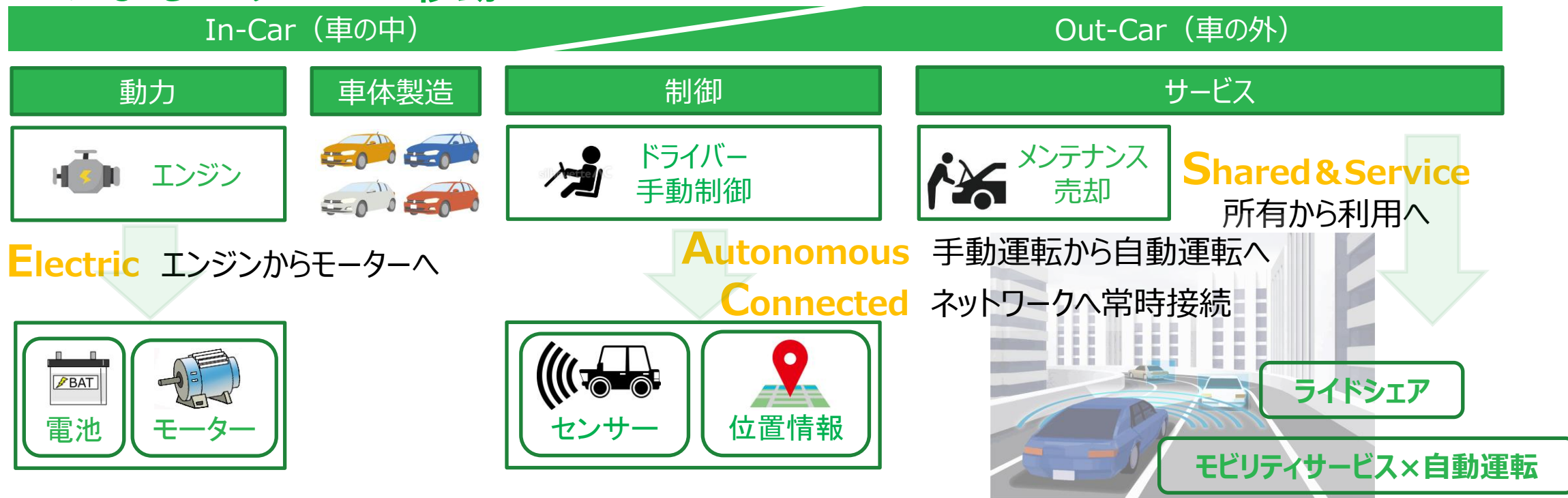
	自動車部品	出荷額 (億円)	構成比率
1	エンジン部品	24,303	13.0%
2	電装品・電子部品 (エンジン関係)	22,463	12.0%
3	駆動・伝導・ 操縦装置部品	42,469	22.7%
4	電装品・電子部品 (車体関係)	31,513	16.8%
5	懸架・制動装置部品	7,769	4.1%
6	車体部品	46,051	24.6%
7	用品	4,125	2.2%
8	情報関連部品	7,733	4.1%
9	電動車両用部品 (HV/FCV/EV)	1,065	0.6%
	合計	187,491	100%

出所：経産省 第4回カーボンニュートラルに向けた自動車政策検討会資料

- 電動化の流れが加速、2050年カーボンニュートラル実現をめざすグリーン成長戦略では、乗用車は2035年までに新車販売で電動車100%を目標としている。
- 自動車部品製造業界には電動化に対応した事業転換が求められる。

03. 業界の動向

CASEによるバリューの移動



CASEの進展により付加価値は、ハード（車両本体）からソフト（サービスプラットフォーム）に移動していく

モビリティサービス・コネクティッドサービス

素材

部品サプライ

OEM

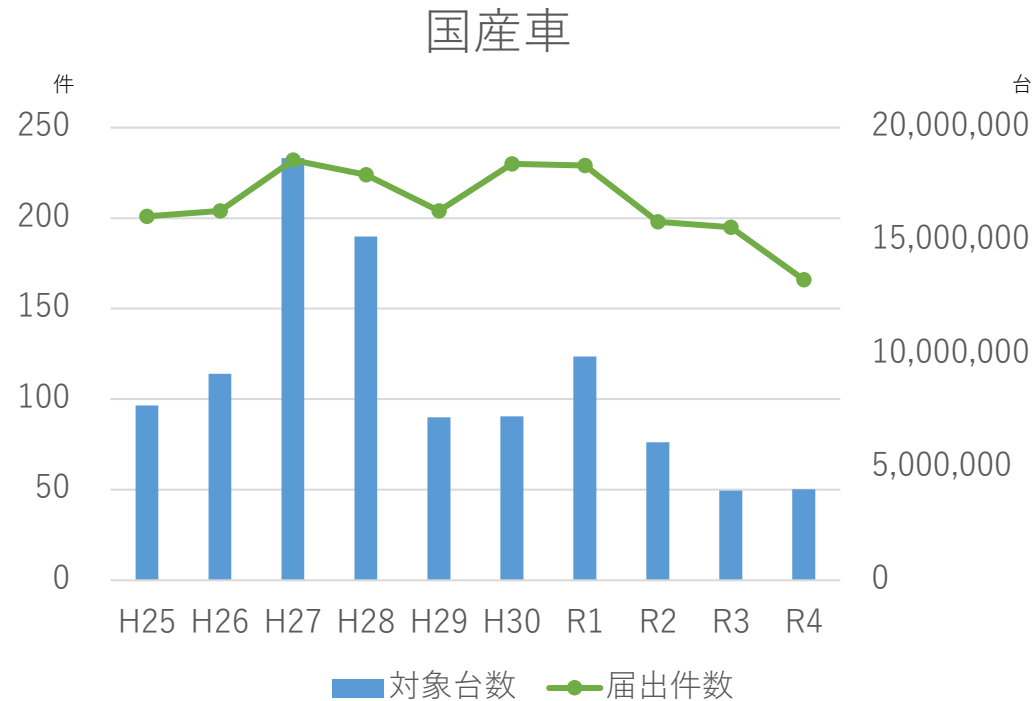
ディーラー

アクセサリ
整備

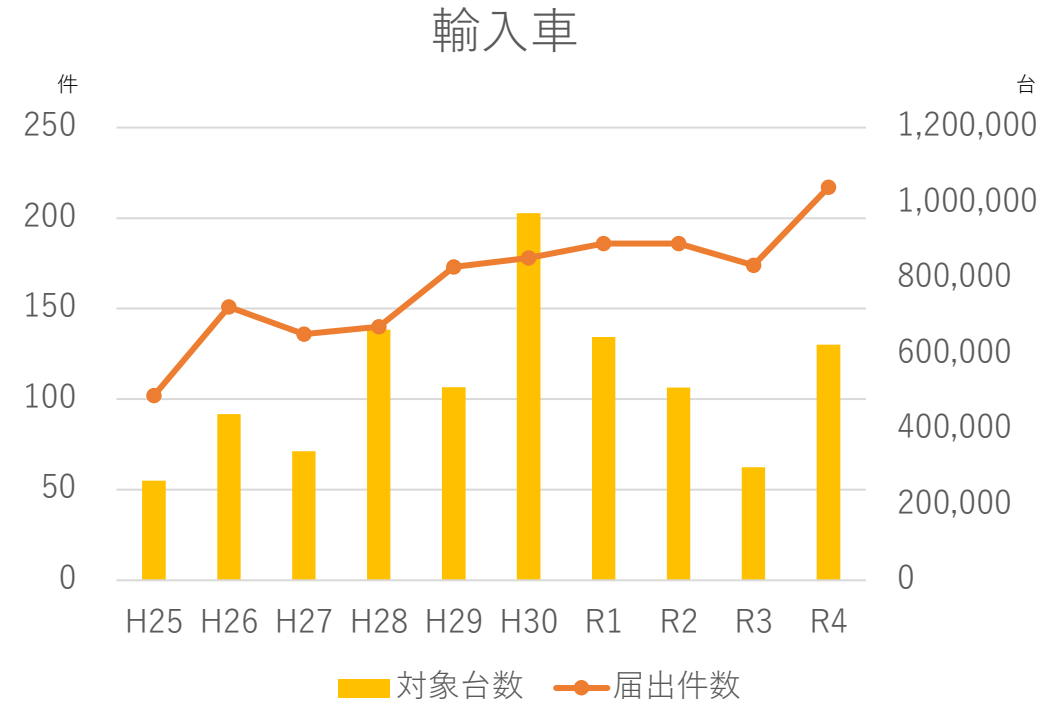
中古車

03. 業界の動向

自動車リコール届出件数



※H27 タカタ製エアバッグに関するリコール対象台数：9,550千台



出所：国土交通省 令和4年度自動車のリコール届出内容の分析結果について

- ・ リコール届出件数は直近10年間に於いて国産車は減少傾向、輸入車は増加傾向にある。
- ・ 電子制御部品の不具合に関連する届出件数は近年増加傾向にある。

03. 業界の動向

将来予測

電動化の本格進展

2030年代半ばには新車の大半が電動車となり、エンジン関連の部品需要は大幅縮小

産業の中心はモーター、電池、パワーエレクトロニクスなどの領域

自動運転・コネクテッド技術の進化

センサーや通信機器、AIソフトウェアといった新分野が成長

部品メーカーもソフト・サービスを組み合わせた事業を展開

グローバル市場とサプライチェーンの变革

新興国の台頭で、中国やインド、東南アジアが世界の主要自動車市場となる

日本企業もそれら地域への現地生産や提携を深める

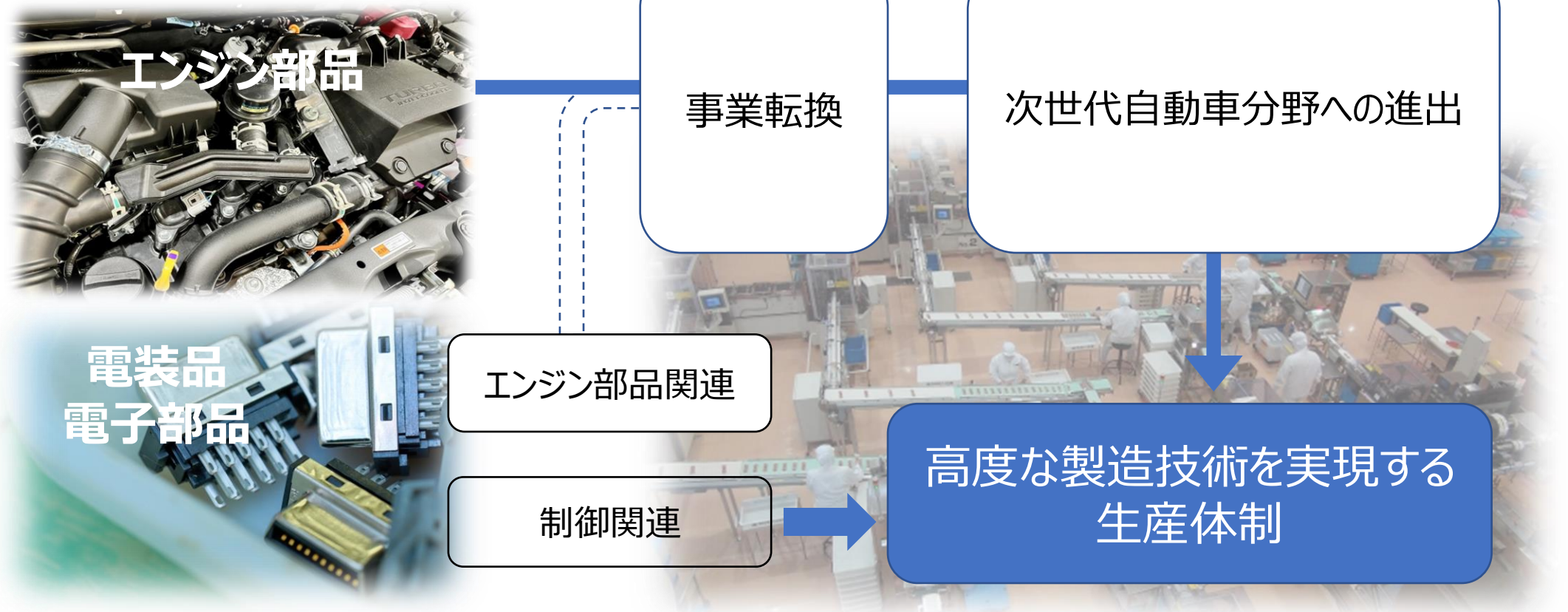
持続可能性への対応

環境対応が不可欠となり、部品のリサイクルやリユースビジネスが拡大

循環経済型のモデルが一般化

04. 今後の焦点

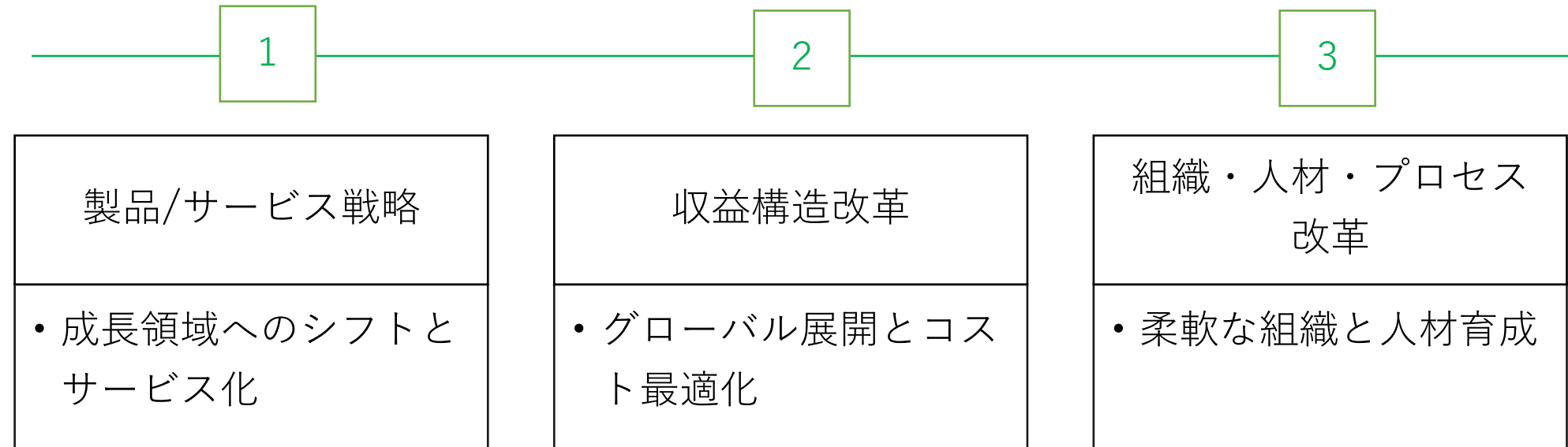
事業転換と技術革新



- 自動車部品製造業界はガソリン車から電動車への部品需要移行により、事業転換を迫られる
- 次世代自動車分野（インフラ、サービス含む）では、一層の安定性、耐久性、精度、小型化、軽量化などを実現する高い製造技術が求められる

04. 今後の焦点

経営改革の視点



- 日本の自動車部品製造業界は、日本経済を下支えする重要産業であると同時に、100年に一度とも言われる自動車産業の大変革期に直面している。
- 各企業は自社の強みを活かしつつ弱点を補強し、新技術への挑戦や経営改革に取り組むために、製品ポートフォリオの転換、グローバル市場でのシェア獲得、デジタルトランスフォーメーション（DX）の徹底など、多角的な改革を進めている。
- 変化に適応しイノベーションを継続できる企業が生き残っていく。

CCIのソリューション

コンサルティングメニュー

経営戦略

- 経営理念、ビジョン策定
- 経営計画の策定
- 個別施策の立案

デジタルマーケティング

- Web広告導入、運用支援
- SEO改善支援
- メールマーケティング支援

業務効率化

- BPR企画・立案
- クラウド会計を活用した事務効率化
- 各種業務のマニュアル化

コストマネジメント

- 原価管理体制の構築
- 物件費削減に関する助言
- アウトソーシングの受託

人事制度・人材育成

- 人事評価制度の策定
- 賃金制度の設計
- 階層別・専門別研修の実施

海外展開

- 海外販路の開拓
- 海外拠点の設立に関する支援
- 貿易手続に関する助言

人材紹介

- 最適な人材マッチング
- 独自のネットワーク
- 人材定着サポート

ICT

- システム導入・更改のサポート
- 独自アプリによる生産性向上
- 社内コミュニケーションの活性化

M & A・事業承継

- 企業の売却・買収のコーディネート
- 企業価値算定に関する助言
- 経営の承継に向けた社内体制整備



- CCIではお客さまの課題を明確にとらえ、お客さまに最適なソリューションを提供します。
- 北國フィナンシャルHD各社、各業務提携機関がお客さまの成長戦略をご支援します。

ご確認事項

- 本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、CCイノベーションとのお取引を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載されている意見などはCCイノベーションが信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありませんが、その正確性、確実性を保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が不正確なものになる可能性もあります。
- 本資料のご利用は、お客さま御自身の判断でなされるよう、また、必要な場合には顧問弁護士、税理士などの各種専門家にご相談いただきますようお願いいたします。
- 本資料の著作権はCCイノベーションに帰属し、本資料の一部または全部を、電子的または機械的な手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じます。



当社のコンサルティングに
詳しい詳細はこちら

お問合せ



専門コンサルタントが
ご相談を承ります。
お気軽にご連絡ください！

LinkedIn



コンサルティング事例やセミナー情報を発信中
ぜひフォローをよろしくお願いします！

Facebook



Quality Company, Good Company. ともに、未来へ。

北國FHDグループ

